

31P-0731

京都薬科大学－東北薬科大学間遠隔授業での学習支援システム(LMS)を活用した初年次教育における取り組み

○藤原 洋一¹, 石川 誠司¹, 星 憲司², 川上 準子², 青木 空真², 楠見 僚平¹, 瀬尾 和彦¹, 椿原 沙紀¹, 大同 卓¹, 益川 顕¹, 深田 守¹, 佐藤 憲一²(¹京都薬大, ²東北薬大)

【目的】初年次教育は各大学で重要視され、種々の教育的な取り組みがなされている。一方、インターネットを利用した遠隔授業の普及もまた近年、急速に普及してきている。このような背景から、2004年度より京都薬科大学と東北薬科大学では毎年継続して、TV会議システムを主として使用した合同遠隔授業に取り組んできた。今回、学習支援システム(LMS)を活用することで、より教育効果のある遠隔授業の実施方法について検証したので、報告する。【方法】両大学間で授業時間(約70分間)の調整を行い、1)「大学紹介」、2)各大学学生からの発表および質疑応答、3)学生間の交流(Moodle、「直接の対話」)を行った。LMSはMoodleサーバを使用し、質疑応答や学生間交流の際はそのアンケート機能を利用して、集計結果を即時に公開することで両校の学生がその結果に興味を持つように心がけた。【結果・考察】今回、両校でMoodleのアンケート機能を利用して、発表後の質問内容やその回答を学生に自由に書き込ませる形式をとったところ、質問や回答数が劇的に増加した。発表者は書き込まれた多数の質問から自身が答えられるものを選択して回答できることから、発表者・質問者双方にとって従来の「対面式での質疑応答」と比較して、より満足のいく内容となった。毎回、この遠隔授業での大きな悩みとなっているのが、時間的な制約のある中、発表終了後の質疑応答が不調に終わる点であった。以上のことから、初年次教育ではただ対面式ということにこだわるのではなく、このようなアプローチも学生間の交流を活発にするためには非常に有効であるということを確認することができた。